

清水町総合計画審議会 会議録（要約）

日時 令和2年9月15日 19時00分～20時55分

場所 清水町役場庁舎2階 庁議室

【出席者】

委員：丸山良三、残間一憲、氷見隆雄、尾崎俊明、宮澤真二、桑尾達也、
高橋利幸、伊藤亜砂子、寺内麻紀、大東孔美、林緑

（欠席：表裕一郎、和田聡明、上谷明美、梶深雪）

事務局：企画課長（前田真）、企画課長補佐兼統計企画係長（川口二郎）

政策企画係長（田村幸紀）、政策企画係主事（木村翔）

傍聴者 0名

記者 0名

1 開会

2 町長あいさつ

お忙しい中、清水町総合計画審議会にご出席いただきありがとうございます。当初9月9日に開催予定でしたが、委員の皆さんの都合もありまして急遽本日に日程を変更して開催することとなりました。

本日の総合計画審議会は「町からの諮問に対し、審議会から答申をいただく」という形ではなく、総合計画策定の進捗等に広くご意見をいただきたく開催するものです。

昨年の7月から無作為抽出の町民で結成し議論を進めてきた清水ミライ自分ごと化会議も、8月31日全ての議論を終了し、一昨日には、清水のミライを考えるまちづくりセミナーの席上で20の提案をいただいたところです。

その提案内容を現在、各課で検討を進め総合計画に町民の意見を取り入れるという作業に入っており、総合計画策定作業もいよいよ大詰めを迎えています。

今後、議会へ提案する前には総合計画の基本構想と基本計画の素案を、総合計画審議会に諮問させていただきますが、本日はその前段として策定経過や進捗状況、そして住民協議会の20の提案内容について事務局より説明させていただきますので、忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

3 会長あいさつ

当初9日を予定していたが、委員の欠席により本日となったことをご理解いただきたい。総合計画の策定については、順調に進んでいると聞いているので、質問や意見を出していただいて、より良い審議会としていきたいと思う。

4 協議事項

- (1) 第6期清水町総合計画の全体構成について
- (2) 「清水ミライ自分ごと化会議」からの20の提案について

(事務局より説明)

(3) 意見交換

残間副会長 この提案書を全て実行できれば素晴らしい町になると感じた。しかし、全てをやることは難しい。医療や福祉、子育て、教育も大事だが、どこかに優先順位をつけなければならぬ。人口減少を考えたときに、一番に手をつけなければいけないのが雇用だと思う。前回の会議でもいろいろな事業を横に紐付けして、複数の事業でアクションを起こせるようにという話をしたが、例えば、空き家問題では防犯対策の強化と商店街のにぎわい創出にまたがっている。これは個人の所有物であるため、行政だけでは手に負えないと思う。しかし税金を滞納して、差し押さえをしている物件もあると聞いている。これに手をつけて、今のまま残しておいてもしょうがないため、歯抜けになっても構わないので、とりあえず壊してしまう。更地になることで次が見えてくる。雇用を創出するために、サテライトオフィスが今注目されている。清水町は他の町に引けをとらないくらいの環境が整っていると感じている。里山を求めてくる人もいるため、里山の環境を前面に押し出しつつ、交通の利便性も伝える。更には駅前がきれいなことや、賑やかな雰囲気を作っていければ、良いギャップとなり町の魅力となる。これが企業誘致の道筋となる。駅や駅前を整備して、駅を降りてすぐに良い町と感じ取ることができ、更に里山の雰囲気も感じられるような町になればと思う。しかし財政的に負担のかかることのため、福祉医療などとのバランスを見ながら、やっていただきたい。

事務局 総合計画の今の作りは縦割りだと感じている。横串をさした形を見せることができると考えている。今後各課で協議をして横串をさす作業をしていきたい。コンパクトシティの話についても、重要な課題として進められており、若手会議の中でも駅前再開発の話が出てきており、今後10年間の大きなテーマだと認識している。

駅前再開発はなんとかしなければならないと感じている。この10年間の計画から更に先送りにならないように考えていかなければならない。これまでは問題に対して、行政が縦割りの仕事で解決できたが、時代や社会情勢が複雑になってきているため、複合化した課題にどう立ち向かっていくかは難しいが、なんとかしなければならないと思っている。人口減少に注目しながら、総合計画を作らなければならない。人口の量は社会経済活動と比例すると言われている。いかに人口減少を緩やかにしながら、社会経済活動をしていくために、居心地の良いインフラをどう整備していくかを含めて、これからの10年間で考

えていかなければならない。

氷見委員 一番は雇用が大事。。まずは働く場所を確保することが大事であり、これが町の活性化につながる。働く場所がないと人口は減っていく一方で、町の発展はないと思っている。

事務局 雇用の確保は難しいと思っている。どんなに近代技術が発達しても、人材が確保できないことや子どもたちが働きたいと思っているものと清水町で提供できる職種とのミスマッチなど様々な問題がある。これまで大型の企業誘致が成功した事例はほとんどない。大きな企業を誘致して経済を発展させる考え方ではなく、サテライトオフィスや小さな営業所などを呼び込んでいきたい。またこれまでは定住人口の増加にこだわっていたが、清水町と都市部を行き来する働き方も認めながら、関係人口として経済が発展するということを考える時代だと感じている。

尾崎委員 清水町の強み・課題は大きな意見だと思う。たくさんの意見があるため、一度にやることは難しい。また来てみたいと思えるものがあるかどうかが大変。週末に行きたいと思える施設などがあると大きな魅力になる。コロナの影響もあり、経済的な部分や働き方も変わってくると思う。若い人の感覚も変わってきており、どこかの会社で一生働くという感覚は薄れてきている。子どもの選択肢が広がる中でこの子どもたちが集まって来られるようなまちづくりが求められていると思う。清水に古くからある自然も活かしながら、子どもが帰ってくるような環境づくりを複合的に考えられればと思う。

事務局 総合計画も強みを生かして、課題を克服することをテーマに考えている。行政の公平性だけを求めない視点も大事にする。総合計画はこの町に住む人の幸せを高めることを基本的な理念としている。個人的には町民の幸せはお金を稼ぐことにつながると思っているため、お金を稼ぐ意識を頭の片隅に置いて、戦略を練っていかなければならない。

宮澤委員 今までは上から押し付けられた計画だったものが、町民で考え、それが実現していくことに意味があることだと思う。総合計画は10年後の清水町がどうなっているかを目標としている。この提言が一つのゴールになるのではないかと思う。情報発信について、提言があったが重点的に考えてほしい。自分ごと化会議委員だけでなく、いろいろな町民をどう巻き込んでいくかが大事になる。巻き込むために町民に対してどう発信していくかが総合計画で一番重要になると感じている。経済的な部分については、雇用の創出だけでなく、チャレンジしやすいまちづくりをしてほしい。この人達への支援の積み重ねが更に雇用が生まれ、人口が増えていくことにつながると思う。

事務局 この提案書には役場の職員が関わっていない。構想日本というコーディネーターが住民の発言した言葉やアンケートを拾ったものであり、住民の自分ごと化した意見がまとまってある。自分ごと化会議の中では、食と農業の町だと実感したことがないという人もおり、例えばアスパラを全戸配布するなど清水町ならではのダイナミックな政策があっても良いのではないかという意見もあった。将来子どもたちがこの政策のことを話せることがPRポイントになるのではないかと思った。このような思いが町民に広まることで、住民自体が情報を発信するようになり、起業にもつながるのではないかと自分ごと化会議を通して強く思ったところ。

桑尾委員 町民からの声が目に見える形で実現することで幸せに感じると思う。提案の実現が積み重なれば、満足度が増えていくと思う。人が集まる場所には、そこでしかないものがある。食や公園などそれぞれを個別で考えると実現が難しいかもしれないが、農業や交通、子育てなど横断的に見ていくと実現できることがあるかもしれない。

事務局 提案書の内容が計画に載るだけでも、幸せを感じてもらえると思う。形だけ作るのではなく、計画作成後にどう生かしていけるかを考えて作成していきたい。道の駅や公園に遊具が足りないなど様々な意見がある。町の強みを複合的に考えなければならない。

高橋委員 総合計画は今後10年間を住民の意見を聞きながら、どう実現させていくかの計画になると思う。10年、20年継続する事業ができると素晴らしいと思う。長い期間をかけてゆっくりと積み上げていったものが、将来の清水町で長く続いていくと良いと思う。

事務局 毎回新たな発見をさせてもらっている。これをどのように生かしていくか。長い期間を見据えた計画は総合計画しかないと思う。しかし、総合計画の中の実施計画も4年後を一区切りとしている。長い期間で考えることができていないかもしれないため、今回の総合計画は長期展望を意識した作りにしたい。

寺内委員 提案書のアイデアが多いため、行政に負担がかかり何もできなかったことにならないか不安に感じている。役場が全てを行うのではなく、橋渡しの立場になると良い。例えば農家はね品を買いたいという話で生産者に負担がかかるため、役場が間に入って、売るのは現実的ではない。町民が直売所を自主的にやりたいと言ったときに、役場がサポートできるようになると、いろいろなことが実践できるのではないか。すべてを行政で行うのではなく、町民の橋渡しの立場になることが重要になると思う。

事務局 町民がやりたいと思っていることはたくさんあると思う。1人ではできないことに対して、行政がどう支援できるかが重要となる。商工会青年部は冬のイベントがないと

いう思いから、しゃっこい祭りを企画し、役場が僅かな補助金を支援することで、開催することができた。一番大事なことは、町民のファーストフォロワーになることだと思う。

林委員 自分ごと化会議の無作為抽出という方法は素晴らしいと思う。帯広市等はパブリックコメントで集めた意見も流れやすいと聞く。強制的に参加させるということも重要だと感じた。これまで不便だと思うことがあっても、深く考えることがなかった。町をより良くするための町民の熱い思いが記載されていて感動した。学校のPTAも役員のなり手が同じ人になりがちなため、いろいろな人に経験してほしいと思う。最近では学校給食に地元の食を使ったものがあり、更にはアスパラ祭りや肉井祭りなど地元の食に触れる機会は昔より増えてきていると感じている。清水公園のリニューアル会議に参加していたが、委員と夢のある公園を計画したが、見送られてしまった。てんとう虫のボートで済まされた感がある。清水公園は町外の利用が多いと感じている。町民の満足度を一番に考えた内容だったため、もう一度見直してほしい。

事務局 無作為抽出をやるにあたって、不安を感じていた。役場に不信感をもった人もいたが、最終的には自分達の町を豊かにしたいと考えている人が多い。住民同士が対話を行う中で、うまく話がまとまるものだと感じた。町民が財政的なことも含めて実現の可能性を考えて作ってくれたため、実現できない提案はないと思っている。これからも無作為抽出やリモート参加などコロナが明けても多様な意見を取り入れるために続けていきたいと思っている。これまでは交流人口の増加や経済を発展させるために観光開発に力を入れがちだった。町民が住みやすい、誇りに思えるものを整えることによって、交流人口や経済の発展につながると感じた。清水公園についてはあきらめたわけではない。昨年基本計画を作成する際にもう少し考えてみようということになっただけ。清水公園プロジェクトについては継続している。若手会議の中でも清水公園を活用したいという意見がある。去年いただいた意見を大事にしなが、更に魅力的な公園にしていきたいと考えている。

大東委員 独立や移住を考える人にとって、住居や雇用が大事。チャレンジをするに当たってお金の面が課題となる。小さくてもできる酪農のモデルケースになれるよう頑張っている。今後は橋渡しの役割もしていきたい。農家で売り物ではない野菜をたくさん作っている場合が多い。これらを売る場所や人がいると助かると思う。清水町ですぐに買える牛肉は十勝若牛くらいしかない。ネットではなく、身近に買える地元産のものがあると良い。

事務局 移住から含めてチャレンジするにはお金が課題となるということだったが、行政が保証に立てば借りられる場合もあると思う。チャレンジに前向きな気持ちがあるのにできない町にはしたくないと考えている。人生を賭けて移住をしてきた人に対して、行政で

バックアップしていきたいと考えている。農業や食の町と言いながらも、地元産の物を手に入れる手法がわからないという意見が多かった。軽トラ市のような自分たちで作った物を販売できる仕組みに支援していかなければならない。

伊藤委員 遊びに出かけた時にその町のホームページを検索するため、ホームページの整備をすぐにやってみてはと思う。スマホ版にすることや食や観光などに分けて検索しやすいようにしてほしい。ふるさと小包を送ろうとした時に清水産のとうもろこしがなかった。清水町にある良い物を発信できる場があるのに活用できていない。

事務局 子育て政策は資金的な支援は充実しているが、外で遊べる環境がないという意見が多かった。公園の遊具をどの程度の規模で設置するか検討をしているところ。自分ごと化会議のオブザーバーとして専門家に来ていただいた際に、清水町のホームページは情報量がたくさんあるが、それが伝わっているかは別問題だという話もあった。できるだけ伝わりやすいホームページを新年度に向けて作っていきたい。地元産の物を送りたい、買いたいとなったときに、スムーズにできるように意識して営業をやっていききたいと思う。

高橋委員 清水公園のリニューアル会議はたくさんの議論を重ねた。本当に叶うと思って真剣に取り組んでいたが、急に話がなくなったため失礼だと思う。

丸山会長 御影は住みやすいと思っている。郵便局長を辞めた人は帯広、札内、音更に住む人が多い中、清水、新得はそのまま住んでいる人が多い。これから町民の多様な意見に行政が反応すれば良い町になると思う。清水町は農畜産の町のため、農家で短時間アルバイトをしたいという人もいる。この要望を拾い、つなげる組織があればこの需要を満たせるのではないかと思う。

5 その他

次回の総合計画審議会は11月20日に開催予定のため、日程の調整をお願いしたい。パブリックコメントが11月16日に終了予定のため、事前の資料送付が難しい。今後の進捗状況については随時郵送させていただきたいと思う。

6 閉会